出句用紙（番号／）

作者名　桃

登園は父に抱かれて天高し

石垣の外なかりけり城の秋

焼き印の放馬相寄る露の朝

漱石の書斎に萩と投句箱

穂のさやぎ里のさやぎや稲雀

南柯句会

出句用紙（番号 2）

作者名 上田秋霜

○	○○ ○○○	◎	◎○	
大峰の水さらさらと新豆腐	鰯雲せがれ転職したといふ	枯れてなほ十兵衛杉や秋高し	大きさも艶（つや）も無双の丹波栗	稲雀口鉄砲（くちでっぽう）で追ひにけり

南柯句会

出句用紙（番号 3）

作者名 関洋子

	◎	○		○
銀テープの波掻い潜り稲雀（カ くぐ）	膝小僧に傷よ組体操さやか	秋高し打球はシャープ奏でたり	廃園の庭秋蝶と滑り台	脳に靄（もや）かかる重さの秋思かな

南柯句会

出句用紙（番号 4）

作者名 しゃぼん

湯河原館衝立に飛ぶ稲雀	刈り跡に稲雀の田となりにけり	稲雀田の面に川鳥はいに	病む子へと急行列車稲雀	○ 稲雀母の大正昭和かな

南柯句会

出句用紙（番号 5）

作者名 鮫島しょうん

○	草の実や家の角（すみ）より荒れ始む
	秋晴れや何も載せずに野面（のずら）積み
	航跡は人に会うべく星流る
◎	薬湯や上がるを惜しみ秋の暮れ
	稲雀群れて一羽の粗忽（そこつ）者

南柯句会

出句用紙（番号 6）

作者名 田丁彩

○	◎	◎	◎	◎
雨の日の雨の音する九月かな	秋澄むやプロンズ像の足の爪	枝豆や大衆といふ心地よさ	スカートの中で脚組むそぞろ寒	(兼)稲荷とぶ金堂の尾根の反り

南柯句会

出句用紙（番号 又）

作者名 友澤一途

丁		丁	丁
秋澄むや海の丸みに日の沈む	十三年救ふ指や夜長かな	ラップ丸めの松茸ごはん貰ひけり	減速の車窓賑やか稲雀

丁
無数の汁（イト）垂りて今あり天の川

南柯句会

出句用紙（番号 8）

作者名 真一

収穫を先回りして稲雀	紅葉を歩き疲れて小の字	○ 法被着て子ら「わっしょい」と秋祭り	○ 大正池立ち枯れの木に冬近し	爽籟（そうらい）のテラスさやけしハーブティー

南柯句会

出句用紙（番号 9）　作者名 山下疾風

重複あり

○○	○○		◎○○○	
刈り終へて一陣二陣の稲雀	ふぞろひの栗飯（くりめし）どんと椀に盛る	小豆（あず）ごはん京の毒抜き秋の朝	ひとまずは箪笥一段冬支度	晩秋や落書きめきし俳句帖

南柯句会

出句用紙（番号 10）

作者名 飯田守彩

◎			○	○○
食卓のコスモス二輪野の日差し	携帯のメール消去す夜長かな	ロープウエイ眼下早くも薄紅葉	土塊の紅鮮やかに甘藷(いも)畑	稲雀国はじまりの里暮るる

南柯句会

出句用紙 (11)

作者名 平華

				稲刈りの今年までよと腰さする
				窓の跡静けき破る鉦(かね)叩き
		◎○ ○◎		眼科歯科巡りて見上ぐ鰯雲
				秋風の歌へば悲しボディラン
兼				稲雀空を濁して畑を舞う

南柯句会

12出句用紙

作者名 藤原工長

いそいそと家族の集ふ松茸飯

炊きたての新米放つ艶びかり

新聞とスマホを交互に夜長かな

黄昏て蜻蛉の後を彷徨えり

兼

威統にも平然たるや稲雀

南柯句会

13

出句用紙

白井桃紅

○○ 秋晴や特売野菜買い逃す

○◎ 旅先の車窓打ちたる秋の雨

珈琲の香り楽しむ寒露かな

○○ ぴかぴかに窓拭き上げて秋高し

二歳児に世話をされるや稲雀

出句用紙（番号14）

作者名 上窪泰平

南柯句会

	○○	○○	○○
兼題	稲雀 群(むれ)をはぐれて追われけり	風に乗り笛の音(ね)聞こゆ村祭	山道の缶に銭音柿を食ふ
	登高や瀬戸大橋を見おろせり	猟(りょう)帰り戦の後の障子貼る	☆

出句用紙（番号 15）　作者名　二冥

○	○○○○	○		
フアミレスに配膳口ボの秋うらら	一斉に刈田となるや日曜日	月窓外（そうがい）メ切りは明日に迫りぬ	怠らぬ避難訓練稲雀	すずなりの実に撓（たわ）みて稲すずめ

南柯句会

出句用紙（番号 16）

作者名 山本わこ

	8	◎		㋑
鳥籠を出だし月光浴びせたり	稲雀リスクにまさるベネフィット	戦略は天地いっぱい稲雀	しならせて頭を下げて稲雀	選ばざる道は消えたり今日の月

南柯句会

出句用紙（番号 17）

作者名 福田洸弥

秋うらら寿司を食ったりキスしたり	虫時雨UFO今も見つけろよ	万聖節（ばんせいせつ）待合室のJ-POP	○ 秋蛙（あきがわず）いろんなポーズでぺっちゃんこ	嘴は地の乳（ち）摘む稲雀

南柯句会

出句用紙（番号 18）

作者名 近藤和草

◎◎◎◎	○	◎○◎○	天○
今朝よりは金木犀の道となる	天高し寺の犬猫譲渡会	なぞなぞを出し合いながら鰯さく	まだ青き穂の乳甘し稲雀
			南柯句会

出句用紙（番号 19）

作者名 花山

		○○○		
秋日和晴れに晴たる路上かな	稲雀群れに群れたる稲穂かな	さびれたるぶらんこ丁の望月夜	応仁の大乱に咲くさくらかな	重戦車てんとう虫の昼日和

南柯句会

20

出句用紙・作者名・宮本こぼ

稲雀右のポッケに日のお焦げ

板長の白衣一服秋の暮

秋寂びぬ鉄打ち終へし掌の震へ

野外能黄泉（よみ）と現世（うつつ）に白い月

仁丹の看板下（さが）ル虫の闇

重複あり

(18)

出句用紙 (番号 21)

作者名：(安藤) 英彦

				兼題句 秋 代
束ね掬ぐ夕餉(たばもゆうげ)一輪韮(にら)の花				
八窓(はっそう)の切り取る秋の躙(にじ)り口				
六識(ろくしき)の移ろふ秋の気配かな				
飛鳥史を辿(たど)る どこそこ曼殊沙華				
食べ頃と逃げ頃知るや稲雀				

南柯句会

出句用紙・作者名・富野香衣

ひとり居や夜の輪郭なぞる秋

ストレートティーに一匙秋愁ひ

龍の棲む池畔にスタバ小望月

新涼のならまち器量よしとなる

残照に少し焦げたる稲雀

出句用紙・作者名・岡本へちま

頂に鉄塔残し霧の中

不器用な左手に似し初紅葉

ゆらゆらと夜風に揺れる虫の声

散る落葉追ひ越してゆく雨滴

逃げ散りて風に乱れる稲雀

出句用紙・作者名・川村文蔵

稲雀たたむ扇や田に呑まる

生栗やむつちむち喰む頭蓋骨

~~下り鰻脂(あぶら)焦げたる綱黒し~~

○綱を張る塩の手離れ大相撲

○○柚子坊のむぎゆつと踏まれ角出しぬ

脂(あぶら)鳴る下り鰻の骨黒し

(25)
出句用紙・作者名・横田清史

匂ひより早く目に入る金木犀

花の色違って当然秋桜

○新米の値段は安く感じけり

○○飛行機がゆっくり動く秋の空

稲雀ミレーの絵画を真似たのか

出句用紙（番号 26）

作者名 米田 よし

		○	○○	
稲雀園児の列のすぐ隣	不揃いの色なき風に山河あり	神棚の榊一本秋の晴	芋洗ふ女に星は囁きぬ	鷺去し猿沢池や秋の鐘

南柯句会

出句用紙（番号 27 ）　作者名　服部　梅句

愛着の眼鏡(めがね)を捨てる白秋忌

朝寒(あさざむ)やバイクに乗りてモーニング

祖母作る古き土鍋のむかご飯

金色の稲穂の波や稲雀

そぞろ寒(さむ)風吹抜し浮見堂

南柯句会

R8
10/11
南柯

出句用紙（番号 28）

作者名 太陽

○(主)	○	○(主)		
魚群追ふ海鳥の如稲雀	中華屋のおかもち秋日照りし畳	唐茄子や水玉に愛うつす画家	六十回目の秋花屋閉店す	朝霧の日は仄赤く隠れ得ず

南柯句会